

生物多様性

あかし戦略 2026

概要版



明石市

生物多様性とあかし戦略

1. 生物多様性とは

私たちが住むこの地球に、たくさんの、いろいろな種類の生きものがいること、そしてその生きものたちがお互いに関わり合い、つながり合いながら生きていることを「生物多様性」といいます。

2. どうして生物多様性は大切な？

生きものは、たくさんの他の生きものに関わり合いながら生きています。ある生きものがいなくなると、その生きものに関わっていたたくさんの生きものが影響を受けます。

今、世界ではものすごい速さで生きものが減少しています。人間が生きものすみかを奪ったり、生きものすみ環境を変えたりしたために、生きていけなくなった生きものと、その生きものに関わっていた生きものが、どんどん減少しているのです。

私たち人間は、生きものからの恵みを頼りに生きています。これからもその恵みを受けて生きていくためにも、私たち人間は自然や生きものを大切に守っていかなくてはなりません。

3. 生物多様性を守るために

たくさんの人が暮らす明石市では、市街地が広がり、自然の残る場所は多くありません。残された自然を守り、失われた自然を取り戻すために、明石市では2011年に「生物多様性あかし戦略」を策定しました。そして2026年、これまでの取り組みを振り返り、これからどうしていけばよいかを考えて、新しい「生物多様性あかし戦略2026」を策定しました。人と自然がいつまでも共生していける社会を目指して、これからも取り組みを進めていきます。

明石市は瀬戸内海に面した細長い形をしています。温暖で雨の少ない気候で、多くの方が暮らしています。

明石市の地形は、明石川周辺の平地と、その周囲に広がる台地や丘陵地で形成されています。

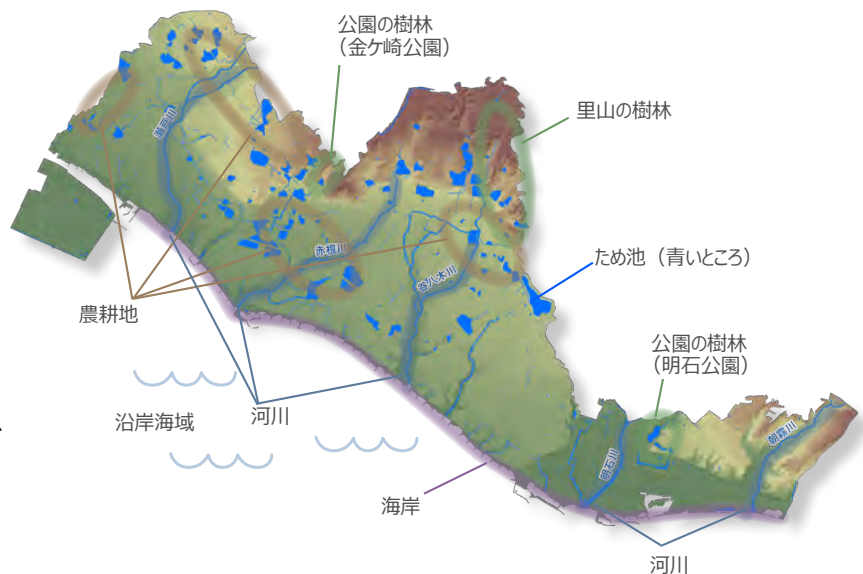
西側の「いなみの台地」は、砂の層で形成されていて、地下にはたくさんの地下水が流れています。

明石市の海岸のうち、東側は川から運ばれた砂がたまって砂浜になり、西側は「屏風ヶ浦」と呼ばれる崖になっています。

明石市の周りの海底の地形は、深く流れの速い場所や、浅く砂がたまっている場所などがあり、変化に富んだものとなっています。

明石市の代表的な自然として、樹林（里山・公園）、ため池・農地、河川、沿岸域（海岸及び沿岸海域）があります。

あかしの環境





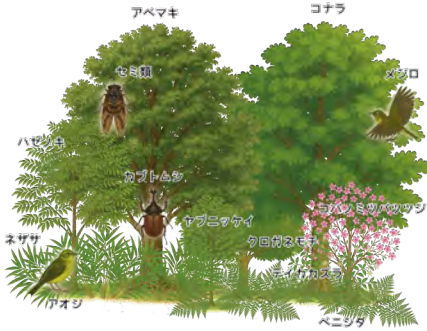
① 樹林 (里山・公園)

広い範囲に樹木が密集して生えている場所を樹林といいます。高さの違う樹木や草、コケなどが生え、多様な生きものの生息・生育地となります。

【里山の樹林】ため池・農地などの近くにあり、人が薪や食料を得るために利用してきた山の樹林です。

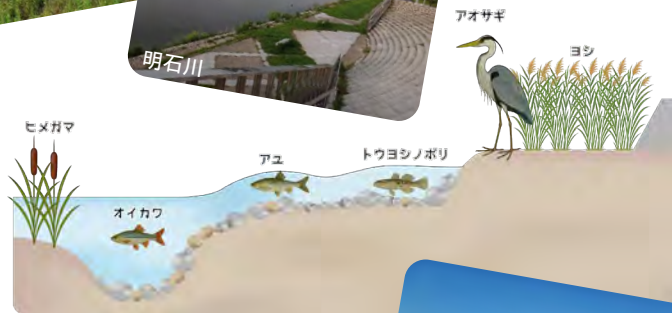
明石市では松陰や松陰新田にみられます。

【公園の樹林】もとは山だったところを公園として整備した場所です。明石市には金ヶ崎公園と明石公園の2つの大きな公園があり、どちらも広い樹林をもつ公園となっています。



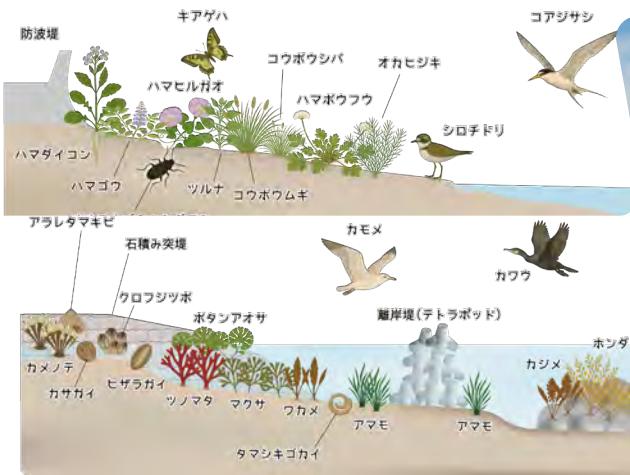
② ため池・農地

農業用水を確保するためにつくられた池がため池です。雨が少なく大きな河川がない明石市には多くのため池があります。最近ではため池も農地も徐々に減ってきましたが、周囲の草地や農地とつながり合ったため池は、生きものが暮らす大切な場所になっています。



③ 河川

明石市には、明石川のほか、瀬戸川などのいくつかの川があります。流れは緩やかで、川の途中や河口には土砂が溜まっています。水中も、周りの砂地や草地も、多くの生きものの生息・生育地になっています。海水の混ざる河口では海の生きものと川の生きものがみられます。



④ 沿岸域 (海岸・沿岸海域)

明石市の海岸は、人工護岸が多いですが、砂や石の浜辺がつけられたエリアでは、浜辺の生きものが生息しています。砂浜には海浜植物が生育しています。水際や海に突き出した突堤では、カニや貝の仲間を観察することができます。海中では、豊かな海を目指して海草や海藻を育てています。


目指すことや取り組み

2050年ビジョン

自然と人が共生するまち
“あかし”を未来へつなぐ

ゴール1 健全な生態系を保全する


ミッション1 まとまりのある自然を適切に保全します

取り組み1 まとまりのある自然を、生物多様性に配慮して管理します 

まとまりのある自然の管理者に、生物多様性に配慮して管理をしてもらうようお願いします。

目標：それぞれの管理者へ順次生物多様性に配慮した管理を依頼します

ミッション2 健全な生態系をより積極的に保全する仕組みをつくります

取り組み2 山や海で自然を守る活動を広げて、「自然共生サイト」を目指します 

まとまりのある自然について「自然共生サイト」の認定を目指して、「30by30」へ貢献します。

目標：1か所以上

取り組み3 「自然共生サイト」で、生物多様性に配慮して管理する仕組みを作ります

「自然共生サイト」で必要とされる生物多様性に配慮した管理体制をつくります。

ミッション3 地域の生態系を保全します

取り組み4 工事や開発をするときには、生物多様性に配慮します

工事や開発をするときには、明石市レッドリストや兵庫県の生物多様性への配慮指針を活用します。

取り組み5 地域の生態系を守る活動を応援します

良好な生態系を保つために、市民や市民団体による公園や海岸の清掃活動を応援します。


目標：清掃場所を決めて年1回以上

取り組み6 市街地のみどりの損失を防止します

市街地のみどりの減少を食い止め、みどりの豊かさを感じられる取り組みを推進します。

目標：2026年度までにみどりを増やす活動を応援する仕組みを作ります

ミッション4 「種の多様性」を保全します

取り組み7 数が減少してしまった生きものを守る活動を推進します 

明石市レッドリストに掲載されている種や、絶滅の危機にある種を守る活動を推進します。

目標：適切な時期に種を確認し、数が減少した生きものを守る方法を考えます

ミッション5 種の現況を把握します

取り組み8 自然環境調査をします

まとまりのある自然にいる生きものや環境の状況を調べます。

目標：まとまりのある自然で、順次専門家による調査を行います

取り組み9 市民が行う自然環境調査への支援をします

市民と協働して調査を行ったり、市民が定期的に観察や調査が行えるよう、サポートをします。

目標：調査ルートを考えます

ミッション6 対話と共創により生物多様性を保全します

取り組み10 企業や大学等との生物多様性保全に関する連携体制を構築します




キンラン



：生物多様性国家戦略の行動目標に対応しています


目標：2030年までの期間目標です

ミッション7 在来種に影響を及ぼす外来種を除去します

取り組み11 特定外来生物を除去します 

生態系のバランスを崩す特定外来生物を除去します。国や県にも働きかけます。

目標：アライグマ・ヌートリアなどを捕獲します


取り組み12 地域で外来種を除去します 

その地域に定着し、在来種に影響を与えている外来種を除去します。


目標：海岸で広がっている外来植物を除去します

ミッション8 市街地に新しい生態系を創出します

取り組み13 学校等のビオトープを活用します 目標：2か所での活用

取り組み14 市街地での植樹を推進します  目標：100本以上

ミッション9 グリーンインフラを推進します

取り組み15 自然の力を活用した工事を実施します 

自然の力を道路や公園などのまちづくりに生かし、持続可能な地域社会を実現します。

目標：自然の力を活用した工事を実施します


ミッション10 沿岸海域で新しい生態系を創出し、豊かな海づくりを推進します

取り組み16 海に藻場を造成します 


魚の隠れ場や餌になる海藻が育つ場所（藻場）を造成し、二酸化炭素の吸収にも役立ちます。

目標：アマモ場を広げ、ガラム場をつくります

ミッション11 生物多様性への関心を高める取り組みを行います

取り組み17 生物多様性の普及啓発活動を実施します 


目標：市民へ生物多様性の大切さを広める活動を実施します

取り組み18 「まとまりのある自然」のパンフレットを作成します 

「まとまりのある自然」ごとに、生態系の状況などを書いた冊子を作成し、市民に配ります。

目標：5か所

ミッション12 自然に触れて、生物多様性のことを知ってもらう取り組みをします


取り組み19 自然観察会を実施します 

「まとまりのある自然」で、市民向けの勉強会や生きものの観察会をします。 目標：年3回

取り組み20 体験型環境学習をします 

地域の自然を活用して小学校で環境学習をします。学習用のプログラムやノートを作成します。


目標：市内全小学校のサポートを行い、環境学習用ノートを作成します

取り組み21 環境体験プレーパークを実施します 

公園などを活用して、子どもの好奇心や想像力、生きる力を育むプレーパークを実施します。


目標：年10回

ミッション13 生物多様性の大切さを教える人を育てます


取り組み22 環境学習ができるリーダーを育て、登録してもらいます 

生物多様性について詳しい環境学習のリーダーを育てます。また、登録・協力をお願いします。

目標：リーダーを育てる講座を実施します

取り組み23 環境学習サポーターに登録してもらいます 

目標：年1回募集し、随時登録してもらいます

取り組み24 小学校の環境学習担当教員向けの研修会を実施します  目標：年1回

これまでの取り組み

ニホンアカガエル



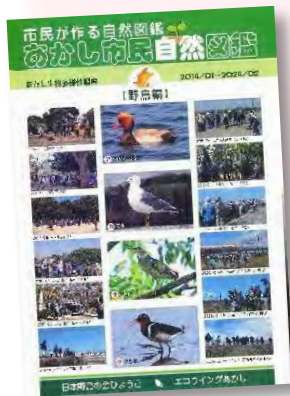
明石市では、自然を守ったり、増やしたり、自然の大切さを伝えたりする取り組みを、これからも進めています。ここでは、これまでの取り組みを紹介します。みなさんの周りで行われている取り組みはあるでしょうか。

明石市レッドリストとガイドブックを作りました！

「明石市の大切にしたい生きもの～明石市レッドリスト～」とそのガイドブックを作りました。ぜひ手にとってみてください。



みんなで調べて、生きもの図鑑を作りました！



みんなで明石市の生きものを調べて、ホームページやパンフレット（「あかし市民自然図鑑」）で紹介する取り組みをしています。これまでに鳥と砂浜の生きものを調べました。

学校ビオトープを整備しました！

貴崎小学校では、学校の池をビオトープとして作りかえました。もともと植えられていた外来種のスイレンやキショウブを抜いて、地域のため池に生えている植物を植えなおしました。絶滅が心配されている種類の植物も育っています。学校の体験授業に使われています。市内のため池が減る中で、新しい生態系を作り出す取り組みとして、期待されています。



市民による市民のための自然ガイドブックを作りました！

明石の自然や文化を感じられるまち歩きコースを紹介した「明石の自然歩き隊!!」。市民による市民のためのまち歩きガイドブックです。



金ヶ崎公園では、

「エコウイングあかし」や地域の人たちなど、

たくさんの方が関わって、公園の里山を管理しています。公園の生きものを調べたり、増えすぎた竹を切ったり、遊歩道をきれいにしたりしています。

自然豊かな公園では、たくさん生きものが見られます。ぜひ観察してみてください。



小学校で自然体験学習を しています！

谷八木小学校では、アマモのポット苗を種から育てて、地域の人に協力してもらい、学校の近くの海へ植えました。アマモが増えて、たくさんの生きものがすむ豊かな海になることが期待されます。



高丘東小学校では、ため池の役割や歴史を学び、季節を通してため池の生きものを観察する「ため池探検隊」に取り組みました。ため池にはたくさんの生きものがいることがわかりました。

藤江小学校では、藤江海岸で絶滅が心配されている「ハマビシ」を守るため、「ふじえっこ探検隊絶滅危惧種ハマビシ レスキュー大作戦」を行いました。海岸の生きもの探しや、海のプラスチック問題の学習にも取り組みました。



タヌキ



明石市の自然を守り、

よりよいものにながら未来へつないでいくために、

市民のみなさんにぜひお願いしたいことがあります。みなさんには、生物多様性について知り、未来の子どもたちへ生物多様性の恵みをつないでいく、大切な役割があります。

みなさんをお願いしたいこと

- 管理者の役割** ★生物多様性に配慮した管理をお願いします
- 市民の役割** ★自然のことを学ぶ活動や授業を通して、生きものや生物多様性について知りましょう
★海岸や公園をきれいにする活動に参加しましょう
★まちをきれいにしたり、生ごみを肥料にしたり、できることから始めてみましょう
★自然にやさしい品物を選ぶなど、自然にやさしい生活をしましょう
★外来種について知り、生きものを飼育するときには放したり捨てたりせず、ルールを守りましょう
- 市民団体の役割** ★専門知識を活かして地域の担い手となり、生態系の保全活動の推進をお願いします
★自然とのふれあいや体験の場を作り、環境学習のリーダーをお願いします
- 企業の役割** ★生物多様性に配慮した事業活動をお願いします
★生物多様性分野での社会貢献、社員教育、企業緑地の活用などをお願いします

水とみどりでつながる あかしネイチャーポジティブ宣言

世界では、陸地の75%は著しく改変され、海洋の66%は複数の人為的な要因の影響下にあり、1700年以降湿地の85%以上が消失しました。また、調査されているほぼ全ての動物、植物の約25%の種の絶滅が危惧されているなど、過去50年の間、人類史上かつてない速度で地球全体の自然が変化しており、このままでは生物多様性の損失を止めることができず、持続可能な社会は実現できないとされています。

こうした事態を受け、国においては、「生物多様性国家戦略2023-2030」を閣議決定し、生物の種の数が増え回復していくポジティブな状態にしていくため、2030年までに、陸と海の30%以上を健全な生態系として効果的に保全しようとする、いわゆる「30by30目標」を掲げ取組を進めています。

明石市では、これまでに、気候非常事態宣言に基づき、事業者の脱炭素経営に向けた支援や太陽光発電施設の設置促進など「ゼロ・カーボンあかし」の実現に向けた取組、循環型社会の実現のためごみ減量施策などの「ゼロ・ウェイストあかし」の取組を進めてきました。

持続可能な社会を実現するためには、これまでの取組に加え、生物多様性国家戦略を踏まえた取組を強く推し進め、里山から海までの水とみどりでつながるあかしの豊かな自然を健全な生態系として効果的に保全・再生することが必要です。

明石市は、以下の5つの方針のもと、
ネイチャーポジティブの実現を目指すことをここに宣言します。

- 1 里山、ため池、農地、公園、河川、海岸など自然環境の保全・回復に取り組むとともに、陸の栄養を海まで届ける「水とみどりでつながるネットワーク」を強化します。
- 2 海洋生物の生息・生育環境の保全に努め、持続可能な海洋や漁場など、豊かな海の実現に取り組みます。
- 3 特定外来生物対策に取り組み、生態系の保護・保全に努めます。
- 4 生物多様性の大切さを普及・啓発し、自然と関わる人たちのつながりを強化し、自然と共生する人づくりを進めます。
- 5 これらの取組を産官学民が共創し、それぞれの立場で健全な生態系を回復、保全し、向上させる社会・経済活動を進展させ、豊かな自然環境を次世代に継承します。

令和8年 1月 18日

明石市長 丸谷 聡子